

参加者募集！

＜参加費無料＞

夏休み こども能楽(謡・仕舞)体験

伝統にふれ、心と体を育てる

日本のこころ、能楽を体験してみませんか？

講座内容 能楽師が基本から教えます。

・謡(うたい):お腹から声を出して、日本語の美しさを学びます。

・仕舞(しまい):能の所作や型を体で覚えて、美しい姿勢・集中力を養います



開催日時:全 5 回 ※全 5 回の参加が必要です。

7/26(日)・7/30(木)・8/3(月)・8/7(金)・8/11(火祝)

10:00～11:30

会場:能登川コミュニティセンター ・ 和室1

(東近江市躰光寺町262番地) ※8/7 のみ和室 3

JR能登川駅・西口より徒歩 5 分

対象 :小学生～中学生(初心者歓迎)

※保護者同伴可

指導 :観世流能楽師シテ方 浦部幸裕師

定員 :10名

持ち物:白足袋(白靴下でも可)

扇子(¥800で購入可能)

「お申し込み・お問い合わせ」

下記の二次元コードを読み取り、お申し込みください



滋賀能楽文化を育てる会

TEL 0748-42-0002

090-8885-2674

メール iba-nomen@e-omi.ne.jp

※切 7月24日(金)



主催 : びわ湖芸術文化交流センター／BiWACC、滋賀能楽文化を育てる会

協賛 : 一般社団法人 能登川地区まちづくり協議会

後援 : 滋賀県教育委員会、東近江市、東近江市教育委員会

この事業はびわ湖芸術文化交流センター／BiWACC と滋賀能楽文化を育てる会が協働して実施しています。

子どもたちに伝えたい

能楽にふれ、心と体を育てる

日本の心、能楽(のうがく)をうたって、舞ってみませんか？

650年前から伝わってきた日本のミュージカル、能楽には子どもたちに伝えたい大切なエッセンスが詰まっています。

能楽体験のポイント

①感情を伝える「表現力」

能楽は限られた動きで感情を表現する、洗練された芸能です。

②日常にも活きる「美しい所作や礼儀」

形式を通して、相手や場を大切にする姿勢を体感できます。

③五感で学ぶ「日本文化」

能楽は、日本語(国語)、謡やリズム(音楽)、装束や能面(芸術)、歴史などが集約された総合舞台芸術です。



能楽は日常生活にも生きている

初心忘るべからず

最初に語ったのは能楽の世阿弥(ぜあみ)。
『花鏡(かきょう)』に残されています。

千秋楽(せんしゅうらく)

「最終日」を指す言葉。能楽で数日間にわたる興行の最終日に、めでたい曲を演奏したり、最後の演目を「千秋楽」と呼んだりしたことから現在の意味に。

お開き(おひらき)

能楽での意味: 能の舞台が終わる際、最後に「お祝いの曲(祝言能)」を舞って、めでたく幕を閉じること。
現在の意味: 飲み会やパーティー、結婚式などを「終わる」「解散」というネガティブな響きを避けるために使われる。

幕の内(まくのうち)

能楽での意味:
能や歌舞伎の舞台で、「幕が閉じている休憩時間」
現在の意味:
休憩時間に食べるお弁当として作られた「幕の内弁当」。

能楽から来たデザイン

波うさぎ(なみうさぎ)

能の演目である『竹生島』の一節に「緑樹影沈んで 魚木に登る気色あり 月海上に浮かんでは 兎も波を走るか」というフレーズから「波うさぎ」の意匠に。



麻の葉(あさのは)

成長の速さ= 子どもの健やかな成長。産着・和小物でよく使われる。



亀甲(きっこう)

亀の甲羅=長寿・堅牢。武家・能装束にも多い



市松(いちまつ)

江戸時代の役者・佐野川市松から流行。現代では「鬼滅の刃」でも利用。

